

上京

史蹟と文化



美を創る



京都の伝統産業の代表的なものに西陣織があります。西陣織は上京区に職人が集住し、一貫作業ではなく分業で構成されています。その一つに箔屋という仕事があります。その伝統を受けついでおられる「箔屋野口」四代目ご主人の野口康さんに工房でお話を伺いました。

私自身は写真家になりたくて日大の写真科に入りましたが、学園紛争の最中に京都に帰ると、お得意先のご主人が「西陣には若い人が帰ってこないとかあかん」と、そんな言葉にほだされ家業を継ぐことになりました。

明治二十七年に出版された「都百種」の金系製造の項目に室町仏光寺下ル「野口安之助」（曾祖父）と記されています。箔屋というのは、和紙に漆で金や銀の箔を押す仕事で、それを裁断師が細く切り、平面のまま帯に織り込む「引箔」、芯系に巻き付けると金銀系になります。西陣では金銀だけでなく、色漆や、銀箔を硫黄で燻したりなどして、変化に富んだ引箔が作られています。

西陣の帯に金箔が多く使われるのは、帯の図柄の多くが室町時代に京都で育まれた金碧画や、依屋宗達や尾形光琳など、琳派と称される花鳥風月、金箔を背景にした屏風絵などの流れを歴史的、地域的に引き継いでいるからだと思えます。

漆による箔屋の箔押しは四角い箔を感じさせない無地金色が「上手」とされ

箔屋

野口の

康やすし

上京区元誓願寺通大宮西入元妙蓮寺町





ますが、膠液^{にかわ}で箔押しをする金碧画では膠液を刷毛塗りし、金箔の端を少し重ねて貼り並べ、膠の乾燥をまって真綿で軽く押しなでます。すると重なった端の部分が、箔足と呼ばれる四角形の積み重ね文様となります。ところが金碧画の金箔には、箔足の中に曲がりくねった線が見えています。そんな金箔を作れと織屋さんのご主人に言われ、できた時は何と20年近くも過ぎていました。

それから更に10年以上も経ったころ、光琳の紅白梅図屏風の金地と流水の制作技法について、美術史の学会で論争が起りました。これがきっかけとなり金箔について発信する機会も生まれ、紅白梅図の流水部分も、箔を型紙として使い、箔そのものは画面に残さない技法にたどり着いたのは、職人として嬉しいことです。

現在の野口さんの自宅は美術館として作品を常設展示され、海外からのお客さまも数多く訪れているそうです。息子さんも作家として箔画の制作に取り組んでおられ、ものづくりの伝統が引き継がれていくことを楽しみにしておられます。

冷泉家と御所 (其の六)



公益財団法人冷泉家時雨亭文庫

常務理事 冷泉貴実子

今から百六十年前嘉永七年（一八五四）四月六日、上京は御所から出火した火事に類焼し、北は寺之内通、西は千本通、南は樫木町通に囲まれる大部分が焼けた。嘉永の大火という。

冷泉為理は、天皇に供奉（お供）し、下鴨神社から聖護院へと避難する。供奉しつつも為理は、家の事を心配している。そこに家司（家来）がやって来て、家内の無事を告げた。薄暮の頃、まだ燃え続ける火を見ながら一応家に戻った。そこから為理卿記を今回は始める。

とり敢えず文庫、もつとも下より、家内の無事立ち退き、余（為理のこと）も無事供奉、類焼免れ候の御礼を申す。

（文庫というのは、冷泉家の最も大切にされている蔵のこと。一階に先祖の俊成卿以来の本が納められていて、二階には観世音像を

はじめ、和歌神や祖先神がまつられていて。冷泉家では、この蔵を神殿として、今日もなお、朝夕拝礼する。現在国の重要文化財に指定されている建物である。）

所々文庫を見るに、土戸の辺、目塗、甚しく行き届き（火が蔵の中に入らないように、土戸の周囲

を壁土で目塗している）、家内の形付け同上。先ず軽く家司へ格別の忠孝の旨を申し述べる（忠孝をほめた）。

右家内無事の事、又皮箱の笈（避難用のリュックサック）滞り無く、皆明寺へ持ち退き候旨等、委しく承り、猶々安心。

しかし、誠に大火、殊に変わる火故、若又飛来候節は、近く相成り候時、文庫の内にも心掛りは（文庫の内が気になるので）これに在る如く、一応開き手早に、観音尊像、

京極殿（定家）古来の御影（肖像画、礼拝のためのもの）、並びに

御三代（俊成・定家・為家）の古来の御影、朱印、系図、祖父公（為則）の御残金の箱等、持ち退くべく申し付け置く。

直ちに又聖護院宮へ参向の事。此頃火、上（北）は大略静か。兎角西下（西南）へ方図無く（限りなく）焼け行くの様子。天の赤色、日の出の如きよりも増す。

途中にて山科三位に行き会ふ。非番の者は勝手に退出去り候旨、語られ候へども、届け無しの退出の事故、矢張り参じ候処、其旨表向承り、即ち退出。（道で出会った山科三位は、非番の者は勝手に退出してもよいと言ったが、一応再び聖護院に行き届けて退出した。）

其頃、始めて千本の鐘の音、耳に入る。それまでは、なか／＼聞こえず（鎮火を知らせる鐘が千本にあったようである）。

枕を取り候へども、一向臥す。西の方、火は如何と毎度見れ共、前と同上。

三反ばかりも、神像、観世音、先祖を文庫下より拝す。又愛宕、



冷泉家 御文庫

秋葉山（両神とも火伏せの神）等を拝し、御礼を申す。其の内鶏鳴（鶏が鳴く。すなわち夜明け）。鳥鳴きて、東の空明け渡る。西の空、赤み退き、煙の色に成る。卯刻（午前六時頃）過ぎ頃、漸く全く鎮火す。

上（北）は寺の内辺り、西は千

本、下（南）は樫木町迄也。軒数知らず。消鐘の音を聞く。大いに安心す。誠に天明（天明八年・一七八八）此の方の大火也。時至るとは雖ども、恐る可し。事共也。

こうして上京を焼きつくした嘉永七年（一八五四）四月六日の昼下がりより翌朝にかけての冷泉為理の日記の記事は終わる。この後も関連記事は続くが、二日後四月八日には、こんな記録が見える。

一、今日当り、段々一昨日の事を承るに、もはや陽明家（近衛家、今出川通をはさみ、冷泉家の南側にあった摂家）焼亡に成りかかり、よほどあやうしと思ふ頃、不思議、北風烈しく吹く。其風に連火西に移り候由。全く文庫の方より吹き来り候風。

観世音の御蔭と恐れ仰せ奉る、有難き事共也。

子々孫に至り、此の御恵み、必ず必ず忘るる可からず。実に有難き事也。

此家を煙となさぬ観世音

めぐみの風の吹きしかしこさ

仰ぐ可し。余りの有難さに、思はず一首を思出し、これを書く。

新・古茶道美術品

清昌堂
やました

京都店・京都市上京区小川通寺ノ内上ル

〒602-0061 TEL (075) 431-1366

FAX (075) 431-1370

東京店・東京都新宿区市谷甲良町1-8

〒162-0856 TEL (03) 5261-4566

FAX (03) 3235-5677

柔道圓心道場

〒602-0014
京都市上京区室町通寺之内上ル下柳原北半町 210
TEL (075) 441-1968 / FAX (075) 441-2972

山崎接骨院

〒602-0898
京都市上京区烏丸通寺之内西上ル相国寺西門前町 647
TEL (075) 451-6050 / FAX (075) 451-6051

<http://www.enshin.sakura.ne.jp/>



今回は五辻通とその北にある紋屋図子とを合わせて歩いてみることにします。

上京区内は図子の多いことでも知られますが、中京区あたりの都心部の図子と微妙な違いがあるように思われます。上京区の図子は平安京の北端である一条大路より北部に、その特色をあらわにしており、それが迷路のようになっているのです。

余談ですが、上京区のある企業組合の専務理事をなさっていた方が、終戦直後に京都市に入り、上京区役所で滞納されている税金を徴収するのに自転車で一軒一軒たずね歩くうちに迷子になってしまったという昔語りを聞き、今のような道路地図やカーナビのない時代は大変であっただろうと思わせられます。

紋屋図子

紋屋図子は大宮通から智恵光院の間で、上立売通と五辻通に挟まれた二〇〇メートル程の短い道ですが、西陣の産業を凝縮したような地域といえます。そのことは江戸時代の書誌や文書に色濃く現われています。江戸時代の中期、延宝六年(一六七八)に刊行された『京雀跡追』に、「ねりしま(練縞)を(織)るところ上立売もんや(紋屋)のづし(図子)」とあって、このころ既に高級絹織物である練物の主産地であったことが想像されます。

図子は初めから突き抜けていたのではなく、町家の裏にある空地に通された袋小路に始まると考えられ、もとは通り抜けできない道であったのです。紋屋図子もその一例で、『聖天図子文書・西陣天狗筆記』という史料によると、それまで「まへてん聖天の図子」と呼ばれていたところに住んでいた御寮織物司の井関七右衛門宗麟が、図子の東にあった家を買って大宮通へ抜けられるようにしたと記録されています。「紋屋」は宗麟の家号で、それまでは北にあった西陣聖天(雨



紋屋図子

宝院)からとった「聖天図子」の名を宗麟の功績にあやかり「紋屋図子」と改めたといえます。それは天正十五年(一五八七)のことであったといえますから、西陣の高級織物が普及するきっかけになったのでしょう。

もともと御寮織物司は宮中の役所である、内蔵寮ちゆうざうから任命されて装束を織った家で、旧例の絶えた応仁の乱後も、大宮通を中心に機業を復興し、高級織物の産地としての西陣の中核となつて行つたのです。今も紋屋図子には数件の紋屋が残り、そのたたずまいを残しています。

五辻通

紋屋凶子の一筋南を大宮通から御前通まで貫いているのが五辻通です。起点となるのが五辻町で、平安時代の末期以来、藤原成親の五辻第や頌子内親王の五辻第齋院などがありました。頌子内親王は鳥羽天皇の皇女で賀茂社の齋院をつとめました。また後鳥羽上皇の五辻殿があったので通り名となったという説もあり、大宮あたりにあった邸宅を代々受け継いできた名残りとも考えられます。



五辻殿社

智恵光院通を越えると北側に本隆寺とその塔頭が一廓を占めています。法華宗真門流の総本山で慧光無量山本妙興隆寺と号し、略し



本隆寺本堂

て慧光山本隆寺といえます。長享二年(一四八八)に妙顕寺日真が分派して四条坊城の地に寺を建立したのが始まりで、天文五年(一五三六)の天文法華の乱で焼亡し、一時泉州堺に逃れましたが、やがて京都に戻り、天正十二年(一五八四)に豊臣秀吉の市街地改造によって現在地に移り今に至っています。その後、承応二年(一六五三)の火災に遭いますが、明暦三年(一六五七)に本堂

が再建され、やや後れて完成した祖師堂とともに現存しています。享保十五年(一七三〇)の西陣焼け(享保の大火)や天明八年(一七八八)の団栗焼け(天明の大火)にも焼け残ったので「焼けずの寺」といわれるようになりまし。本年一月に重要文化財の指定を受け、春の非公開文化財の特別公開事業で内部が一般公開されました。

本堂は桁行七間、梁間七間、入母屋造本瓦葺で、禅宗様の組物を基調としながらも、日蓮諸宗の仏堂の平面の特徴をよく示す本格的な七面堂の形式を残しています。

祖師堂は桁行三間、梁間四間、寄棟造本瓦葺で、屋根は鋸状に段差を付けています。内陣の宮殿には日蓮のほか日像・日朗の坐像を安置し、内陣の格天井には極彩色で花が美しく描かれているのも見所の一つといえるでしょう。

この地は無外如大尼(千代野姫)の開創になる景愛寺の旧地で、千代野姫が満月の夜、井戸の水を汲んで

香木・夏香・蒸種 輸入製造

山田松香木店

〒602-8104
京都市上京区勸修寺小路164 (御所番)
TEL 075-441-4694
FAX 075-431-7879



ぼたん鍋と京料理

元祖 畑かく

京・上御霊前烏丸西

☎075-441-0610(代)

いたところ、桶の底が抜けて月影が水とともに消えてしまったのを見て仏道に入ったといえます。このことから本堂前にある井戸枠を「千代の井」と呼ぶようになったという由緒が伝えられています。



千代の井

また祖師堂前にある「夜泣止の松」は、第五世の日諦にちたひが、一婦人から養育を頼まれた幼児の夜泣に困り題目を唱えながら松の木を廻ると夜泣が止んだという話から、この松の皮や松葉を枕の下に敷くと幼児の夜泣に利くという俗信仰がありました。

このほか墓地には黒川道祐どうゆうの墓があります。この人は江戸初期の儒医でしたが、遠碧軒おんぺきけんと号し、「日次記事」・「雍州府志」・「近畿歴史記」等の地誌を著わし、今も江戸時代の京都を調べるためには欠かせない地誌として、いずれも『京都叢書』に収載されています。

さらに西へ進みますと、やがて嘉楽中学校の校舎が見えてきます。この一画は般舟三昧院はんしゆさんまいいんの跡地です。今出川通に面して「禁裏道場蹟」と彫られた石碑があり、側面にはその由来が綴られています。もとは応仁の乱後に後土御門天皇によつて伏見指月の里しげつに建立されましたが、豊臣秀吉が伏見城を築くために現在地に移り、禁裏道場として皇室歴代の尊牌を安置し、周辺には皇室関係の陵墓や分骨所もありましたが、明治になって尊牌は泉涌寺に移し、一隅には般舟院陵として残されました。その跡地には嘉楽小学校が開設され、その仏堂は校舎として転用され、関東大震災のあと引

き取られて行ったという話も聞いたりすることがあります。



長谷川杼製作所 看板

千本通を越えると北側に「長谷川杼製作所」と書かれ杼しゆをはめこんだ風雅な看板が目を引きます。ここは本誌二五号(平成十五年八月発行)の「美を創る」に登場していただいた長谷川淳一氏の工房です。西陣の織屋に欠かせない織機に緯糸よこいとを通すための「杼」の製作を唯一人継承されている名工で、国選定の文化財保存技術者に認定されていますが、十年を経た今日もお元気で黙々と杼の製作を続けておられることに頭が下がります。

大報恩寺(千本釈迦堂)の前を過ぎると、やがて北野天満宮の東門の前へ出ます。ここまで一・二キロ、西陣の昔の姿を垣間見ることのできる五辻通でした。

(出雲路敬直)

歴史文字シリーズ

伝達浪漫

紀元前3000年頃。パンのシンボルが描かれ、食料配給の割り当てが記録されている。

和光印刷株式会社

〒602-0012 京都・烏丸通上御霊前上ル TEL.075-441-5408(代)

E-mail:info@wako-print.co.jp

京都人さえもが恋するホテル。

〒602-8071 京都市上京区新町通中立売(御所西)

TEL.075-441-4411 (代) FAX.075-431-2360

http://www.brightonhotels.co.jp/kyoto/

BRIGHTON HOTEL

上京の昔ばなし

第九話

半井の井戸物語

京都御所の西側、烏丸通中立売の北の町を薬院町といった。その昔東側には施薬院があったのでかく名付けられたのであろう。又中立売から南へ上長者町迄を炉庵町と称した。更に上長者町から下長者町迄を川端町といったが、この三ヶ町は明治初年皇居の前にあるという意味から龍前町と改名された。

施薬院は平安京の頃からあったようで、施薬院の北裏には大きな薬草畑があり、種々の薬草が栽培されていたようである。

施薬院とは病人を治療する救済施設ではあるが、庶民とは無縁のもので貴族の療養を目的とした特殊なものだったらしい。四百年程昔の永祿の頃施薬院の筋向に和氣炉庵という医師が住居を構えた。

和氣氏の先祖は護王神社の祭神和氣清麻呂公である。その名門の流を汲む和氣氏はその頃和漢の医術に通じ、典薬頭となつて貴族の間に信任を得、内裏に出仕していた。

和氣炉庵はこの地に定住し子孫亦代々医を以て家業としたので、いつしかこの町は炉庵町と名付けられた。炉庵の屋敷内には大きな井戸があった。この井戸水は四季絶えることなく常に清冽な水が水晶のように澄みきつて、こんなと湧きでていた。平安期の頃には烏丸通には烏丸川が流れていた。勿論上流は加茂川でその分流であったが、弘安七年（二一八四）閏四月、烏丸川は大洪水となって附近の住宅に大被害を与えた記録がある。応仁の乱の後、烏丸川は

埋めたてられ川はなくなつたが、地下の水脈は豊かで名水の井戸も数多くこの近辺にあった。炉庵の井戸もその一つである。炉庵の井戸水は薬草の処理や製薬には重要な役割をもつてつかわれた。自然が恵む霊水である。しかしこの井戸水は又炉庵家に働く多くの人達の日用の飲料水としても大切な水であった。そこでこの井戸の真中に板じきりをし半分は製薬用に半分は家の炊事用として用いた。井戸を半分ずつ仕切つて使うので半井である。人々は半井の井戸と呼ぶようになったが、和氣氏の名前もいつの頃にか半井といわれ、半井の炉庵先生として親しまれるようになった。元禄期の古地図には半井炉庵の家は名記されているが、その後いつしか九条家の別邸となり、後更に寛保頃の京絵図では旧華族醍醐家の屋敷と変わり、明治



しみじみと 心のかよう 贈りもの

www.toraya-group.co.jp

虎どらや



Every Day 5:00~7:00pm
HAPPY HOUR
40%OFF

金曜・土曜は
4:00pmから開催!!

毎日17~19時はお酒が4割引!!ホテルバーのハッピーアワー!!
1F ライブラリーラウンジ・バー「ヘイヴン」では、
毎日17~19時はボトル・企画商品および喫茶メニューを除く、
すべてのドリンクを40%OFFでお楽しみいただけます。
この機会にホテルバーをお気軽にご利用ください。

ライブラリーラウンジ・バー「ヘイヴン」 Tel.075-223-8974 (直通)

地下鉄京都市役所前駅から徒歩で約1分

京都ロイヤルホテル & スパ

以後は民家になった。現在はホテル平安に変貌したが、有名な半井

の井戸もいつの頃にか消えてしまった。

第十話

釘拔地蔵の由来



昔から、釘拔さんと呼ばれる親しまれてきたお地藏さんは千本通上立売の東側、家隆山石像寺というお寺にまつられている。向い側には閻魔大王を安置した引接寺、俗に千本閻魔堂があつて、共に庶民の厚い信仰で賑わってきた。石像寺のお堂には大きな石の地藏尊像が安置されている。石像寺の名の起りとも考えられるが、寺の伝来では空海の作と伝えられる。

お堂の周囲の板壁には透き間もなく釘と釘

抜きをつけた絵馬がギッシリと張り詰めてある。これは諸病平癒を祈願した人達がお礼のしるしに供えた奉納の絵馬である。この変わった釘拔絵馬は地藏菩薩の功德によつて、もろもろの苦を抜くという苦拔地蔵の靈験をたたえたものだが、釘拔地蔵として釘拔絵馬が奉納されたことには寺に伝わる古い物語がある。

今から凡そ四百年も昔、京に紀国屋道林という商人がいた。ある日突然両手に激痛を起こし、早速医師の治療をうけたが、更に効めがなく尋常一様の痛みではない。苦しい時の神だのみ




MALEBRANCHE
京都 北山

京都 北山
マールブランシュ

〒603-8053 京都市北区北山通植物園北門前
TEL (075)722-3399・FAX (075)702-9440
9:00AM~9:00PM 年中無休(喫茶10:00AM~8:30PM)
<http://www.malebranche.co.jp/>

で遂に石像寺の地藏様に願かけして病気の平癒をお祈りした。そうして七日の満願の日がきた。道林が病悪に疲れて、うとうととまどろむ夢の

中に不思議や地藏尊が出現された。地藏様のお手には八寸釘が二本握られ、「道林、汝の手の痛みは前世において人を怨み、人形を作って八寸釘を打ち込んだ罪



障によるものである。しかし汝の祈願により今こそ罪障は消滅した」とのお告げを聞くと夢から醒めた。目覚めた道林が気づくと今までの手の痛みはけろりと消え失せている。あまりの喜びに早速道林は石像寺に馳せ参じた。見れば地藏様の前には血に染った八寸釘が二本あったという。この霊驗物語は忽ち京の町々にひろがり、釘拔地藏様とあがめられ信仰

されるようになった。さて石像寺は山号を家隆山という。この地は王朝の頃、藤原家隆の居住した邸宅の跡といわれている。山号もそれに因むのであろう。家隆

第十一話 北野天神の切支丹燈籠

は平安朝の代表的な歌人で、時の人は万葉の歌人柿本人麻呂の再来と評した程である。境内には家隆や定家の供養塔が並んでいる。

昔から北野の天神さんは多くの人達によって親しまれてきた。毎月二十五日の縁日には終日境内は善男善女で賑う。一の鳥居から表参道の石畳を進むと両側には数多くの石燈籠が並んでいる。いずれも天神信仰の庶民が神への願望と感謝をこめて奉納した献燈である。本殿前の三光門の右側にある廻廊の前に、献燈の石燈籠とは違った形の庭園などで見かける石燈籠が一基立っている。これを一般には織部形あるいは織部燈籠と称している。織部燈籠とは茶人にして大名であった古田織部が造形したのでこの名称がついたという。

竿の上部が左右にふくらみを持ち、中程から下の中央部には地藏菩薩の彫刻がある。この燈籠を又の名を切支丹燈籠とも称している。それは竿の丁字形が切支丹の十字架を象徴するとし、又地藏菩薩を聖母マリヤ像に見たて、そう呼ぶのである。

この燈籠は火袋を支える竿の部分が変わっている。竿は丁字形を呈し、

織田信長が安土や京都に南蠻寺を建てキリスト教の布教を認めた頃、諸大名の中には熱心な信仰者も出来た。これが後、徳川家康の時代になって慶長十八年頃キリスト教は厳しく禁止された。以来信仰の自由を失った教徒達は役人の目を逃れ、地下にもぐって信仰を続けた。彼等が密かに織部燈籠にキリストの啓示を感じて祈りを捧げたというのである。そ

「バラの寄せ かご講習会」



バラをはじめとする季節の草花をプランターに寄せ植える「バラの寄せかご講習会」が、3月15日に上京区役所で開催されました。

NPO法人フラワーアーティスト育成協会名誉理事の辻井康雄氏をお招きし、参加者の皆さんが思い思いに作品を仕上げ、園芸を通じて、楽しく自然や環境について考える絶好の機会となりました。

上京区憲法月間 「映画のつどい」

5月の憲法月間にあわせ、5月22日、同志社大学寒梅館において映画「遺体—明日への十日間—」の上映と、同志社大学・立木教授による講演「高齢者、障害者と東日本大震災」が行われました。

今回も、日本語字幕と音声ガイド（クローズド方式）による場面ごとの説明がついた「ユニバーサル上映」を行い、視覚や聴覚に障害のある方やご高齢の方も含め、みなさんがともに映画を楽しむことができました。

会場には一部・二部あわせて800名を超える方が来場され、東日本大震災と人権について理解を深めていただく機会となりました。



永年の信用
まごころのご奉仕

葬祭センター

公益社

本社／京都市中京区烏丸通三条下ル ☎(075)221-4000
フリーダイヤル ☎0120-00-4200 <http://www.koekisha-kyoto.com>

◆ 葬儀 式 場 ◆

北プライトホール（堀川紫明）京都市北区紫明通堀川東入ル ☎(075)414-0420
中央プライトホール（五条大和路）京都市東山区五条通大和路 ☎(075)551-5555
南プライトホール（堀川八条）京都市南区堀川通八条下ル ☎(075)662-0042
西プライトホール（五条西大路）京都市右京区五条通西大路西入ル ☎(075)322-0042
山科プライトホール（五条外環）京都市山科区五条通外環状線東入ル ☎(075)595-0042
烏丸プライトホール（因幡薬師）京都市下京区烏丸高辻南入東入 ☎(075)351-7724
宇治プライトホール（宇治横島）宇治市横島町（京都文教大学前） ☎(0774)20-0042
大津プライトホール（大津駅南）大津市朝日が丘1丁目 ☎(077)523-0042



「みんなで

活動

花を咲かそう」

7月12日に、ボランティアの皆さんによって一斉植替え作業が行われました。当日は快晴でとても暑かったのですが、ハイビスカスや七色とうがらしが植えられ、夏の陽射しのなか、区役所入口に華やかな彩りを添えています。

区役所を訪れる人々に憩いと安らぎを与える場となるように、また、まちの美化や環境問題などについても考える機会を広げていければと、日々取り組んでいます。



上京茶会



春の「上京茶会」が、6月15日大徳寺塔頭瑞峯院を会場に、表千家による懸釜で開催されました。

茶室での本席と、枯山水の名園「独坐庭（どくざてい）」を眺めながら立礼にいただく副席の二席でお茶を味わい、ときおり初夏の心地よい風が流れる中、心休まるひとときを過ごしていただきました。



宴会・婚礼・会議
宿泊・レストラン

あすなろ

¥5,000(税別)

ホテル

ルビノ京都堀川

〒602-8056 京都市上京区東堀川通下長者町
TEL 075-432-6161(代) FAX 075-432-6160
<http://www.rubino.gr.jp/>



レストラン

11:30~14:00

毎週日曜日はお得な
ランチバイキングを
しております

おひとり

¥1,600(税込)

<http://www.hanakobo.co.jp>

フリーダイヤル 0120-46-8700



大切な方への御供えのお花、お誕生日、御祝のお花、
結婚式のブーケなど心に残る記念日を
お花で彩るお手伝いをさせていただきます。

花工房 京都本店 京都市上京区丸鳥通今出川下ル
TEL 075-414-8700 FAX 075-414-7787

「上京・史蹟と文化」は上京区役所地域力推進室まちづくり推進担当で販売致しております。(TEL 441-5040)
また、上京区役所のホームページで御覧いただけます。



- 神学部
- 文学部
- 社会学部
- 法学部
- 経済学部
- 商学部
- 政策学部
- 文化情報学部
- 理工学部
- 生命医科学部
- スポーツ健康科学部
- 心理学部
- グローバル・コミュニケーション学部
- グローバル地域文化学部



Doshisha University
同志社大学
<http://www.doshisha.ac.jp/>

お問合せ先 同志社大学 企画部 広報室 広報課 TEL:(075)251-3120

酢一筋の商い、伝統の滋味。

伝統から未来へ
京・西陣 孝太郎の酢
(有) 林孝太郎造酢

京都市上京区新町寺ノ内上ル東入道正町455
TEL (075) 451-2071
FAX (075) 451-8028



創立以来八十年に
わたって、
和やかな家庭的な
雰囲気にも包まれつつ
就学前教育の
本流をめざして、
保育を続けて
参りました。
幼児たちは
楽しい遊びを通して、
人生に必要な生きる
力のすべてを手に入れます。

学校法人 **北野幼稚園**

京都市上京区御前通一条下る (北野天満宮バス停下車南100m)
TEL.463-0111(代)
http://homepage3.nifty.com/kyotokitano_k/



名物ゆどうふ
南禅寺 JUNSEI

左京区南禅寺門前 電話 075-761-2311
<http://www.to-fu.co.jp>

発展、ともに前へ… 洛和会丸太町病院



洛和会ヘルスケアシステム®

京都市中京区七本松丸太町上ル

救急対応

24時間365日

内科・外科救急

内科/呼吸器内科/
消化器内科/心臓内科/
神経内科/外科/
整形外科/形成外科/
皮膚科/泌尿器科/
耳鼻咽喉科/麻酔科/
リハビリテーション科/
内分泌糖尿病内科/救急科

耳鼻科救急

月~金

午後7時~
午後11時

救急・急患には24時間体制で対応しています。

洛和会丸太町病院へのお問い合わせは **TEL 075(801)0351(代)**

MISAWA

ミサワホームイング

増改
リフォーム 築

リフォームをお考えの方に

全面改装・部分リフォーム・再生リフォームを通じて、安心・安全・快適に暮らす住まいをご提供します。

ご希望のカタログをお電話でお申込ください。

複数選択可



1

住まいのメンテナンス編



2

屋根・外壁リフォーム



3

水廻りリフォーム



4

ECOリフォーム



5

高齢者対応(ユニバーサルデザイン)



6

外構・造園リフォーム



7

ホームイング実例集



8

ミサワホーム総合カタログ

MISAWA

住まいを通じて生活のおつきあい

ミサワホームイング 近畿 京都店

〒601-0022 京都市中京区室町南側西15条御池2町323 075(211)3211

■お申込はこちら

0120-330-351

火・水曜日 定休 受付時間 AM10:00~PM6:30

上京

史蹟と文化

